

クローズアップ
CLOSE UP

石破首相が本市を視察

6月7日に石破茂首相が馬場川通りや中央通り商店街などを訪れ、本市の官民連携によるまちづくりを視察しました。太陽の鐘やアーツ前橋などを見学後、市長などを含めて意見交換を実施。本市の民間や行政、市民による取り組みが高く評価されました。



ツツジの花が赤城彩る

6月上旬から中旬にかけて赤城山のレンゲツツジが満開に。開花時期に合わせて、普段は入れない白樺牧場を地元ガイドが案内する「秘密の絶景ツアー」が開催されました。また、白樺牧場では10月末まで羊を放牧。草を食む羊の愛らしい姿を見ることができます。



アジサイまつり盛況に

6月1日から30日まで、環境システム荻窪公園で「ホテル・あじさいフェア」を開催。15日には、地元「扇の会」による八木節や産直「味菜」の野菜即売会などを実施し、多くの人でにぎわいました。なお、現在休館中のあいのやまの湯は、今年秋頃の営業再開を予定しています。

いきいき
まえばし人

セキネ洋傘店店主
関根健一さん・82歳
千代田町三丁目

着物の記憶を日傘に込めて

弁天通り商店街に店を構える明治37年創業のセキネ洋傘店。四代目の関根健一さんは、20歳で家業を継ぎ、傘作りの道を歩んできた。傘の修理や着物を再利用した日傘作りを手がけ、全国から「思い出の着物を日傘にしてほしい」という依頼が届く。今から約20年前、「装飾用の傘を作ってほしい」という声に応え、着物から傘を仕立てたことが着物を再利用した日傘作りの始まりだった。

「雨傘にするには縫い目が不向きだけど、日傘なら問題ない。思いのほか良くて良かったです」日傘作りの全ての工程は関根さんの手仕事。着物の柄や風合いを生かしながら、傘の骨組みに合わせて裁断・縫製していく。現在、関根さんの下で傘作りを学ぶ女性がいる。専用のマシンは国内にほとんどなく、関根さんが店で縫い方を指導する。「店を継いでもらうつもりはないけど、技術は残していけたら」大切な思いとともに、手仕事の技は確かに引き継がれていく。



農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に対して優れた功績を挙げた農業者を表彰する全国優良経営体表彰。その経営改善部門で桜井畜産が最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。

今回は柏倉町で肉用牛を肥育している桜井畜産を紹介します。

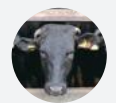
今回大きく評価されたのは経営の効率化。代表の桜井克真さんは、約1,200頭の肉用牛肥育に加え家畜商として年間3,500頭の牛の運搬も担っています。多くのことをこなす時間を捻出するために常に業務改善を進めてきました。

従業員全員が効率よく働けるよう、牛舎に簡単なマニュアルを掲示し、道具なども全て保管場所を決めて整理整頓を徹底。また、6舎ある牛舎を効率よく管理するため、朝の作業後ミーティングを実施。担当者間の共有を大切にしています。

牛の肥育方法もひと工夫。自社農場に合う血統牛を同じ月齢でまとめて購入し、牛舎ごとに月齢を分けて肥育・出荷しています。その結果、飼料の配合や量を同じにできるなど、無駄の少ない適切な肥育が実現。牛の出入りがないために、疫病にかかる危険性を減らすこともできます。通常、平均26カ月齢で出荷するところ、同社では24カ月齢以内で完了。出荷回転率が上がり、生産コストも抑えられています。

「いい方法があればやってみる、無駄なことはやめていく、それをとにかく繰り返してきました」と桜井さん。肥育部会の仲間と密に情報共有し切磋琢磨しながら、本市の畜産を盛り上げています。今後も改善を繰り返し、肉用牛の質の高さと効率的な経営を追求していきます。

桜井さんが属する肥育部会の牛肉は、「上州牛まえばし」としてJAFアーマーズ市内各店で購入できます。



農政課
027-898-5841



桜井克真さん・久美さん夫妻